

ビタミンBook

発行: 笠田高等学校図書館

11月

12号



2024. 11



11 月も半ばを過ぎ、やっと秋らしくなってきました。

さて、「秋といえば・・・シリーズ」の最終として取り上げるのは「さつまいも」です。

さつまいもといえば、シンプルだけど誰もが愛してやまない「焼き芋」と思う人も多いと思います。最近では、夏のおやつとして、「冷やし焼き芋」に人気があるとのこと。芋けんぴ、さつまいも団子やタルト、ジェラートや牛乳とさつまいもで作った「飲む焼き芋」など、食べたことのないスイーツが、紹介されます。さつまいもスイーツは進化の一途をたどっているようです。

また、最近では、栽培されているさつまいもの品種が変化してきているそうです。長年、栽培がトップだったホクホク系の「コガネセンガン」という品種から、ねっとり系の「ベにはるか」へと栽培されるさつまいもの品種も移り変わってきているそうです。



☆☆秋の夜長に読むおすすめの本

図書館が題材になっている
本を選んでみました

『ルリユール』

村山早紀(著)

黒猫工房では、あなたの大切な本を修復いたします。 【913】

『さえずり図書館のワルツさん』

紅玉いづき(著)

さえずり図書館には本の未来が収められた 不思議な図書館。 【913】

『図書館の神様』

瀬尾まいこ(著)

【913】

『図書館戦争』

有川浩(著)

2019 年公序良俗を乱す表現を取り締まる『メディア良化法』が成立して 30 年。行きすぎた検閲から本を守るための組織、図書体に入隊した笠原郁。【913.6】

『アウシュヴィッツの図書係』

アントニオ・G・イトウルベ(著)

アウシュヴィッツ強制収容所に囚人たちによってひっそりと建てられた“学校”があった。ここには秘密の図書館がある。たった 8 冊だけの本があるだけの図書館。【963】

『図書館さんぽ』

図書館さんぽ研究会(編)

クラシックな建築、カフェが併設、マニアックな図書館などが掲載されています。 【010】

『夢見る帝国図書館』

中島京子(著)

上野公園のベンチで出会った喜和子さんが、作家の私に「図書館が主人公の小説」を書いてと持ちかけてきた。【913.6】

まんが

『税金で買った本』

系山岡(漫画)

【726.1】

『箱庭図書館』

乙一(著)

「REZNABURO」の読者参加企画「オツイチ小説再生工場」で募集した読者投稿の中から著者が「リメイク対象」を選んでリメイクした作品集。 【913】



♪♪新しい本がいっぱい♪



『地雷グリコ』

青崎有吾(著)

高校生^{いもりやまと}射守矢真兔が挑む5つの勝負。だましと理詰めが勝負を導く。【913.6】

『柚木麻子の

ドラマななめ読み!』

柚木麻子(著)

作家柚木麻子が観てきた日本のドラマを解説【778.8】

『ことばの番人』

高橋秀実(著)

校正とはなんぞや。「写本または印刷物などを原稿や原本とくらべ、誤りを正す」こと。緻密な作業の末にできあがる本。【749.13】

『二人一組になってください』

木爾チレン(著) 【913.6】

『ひきこもり図書館』

頭木弘樹(編)

ノーベル文学賞受賞作家ハン・ガン作『私の女の実』が収録されています。【908】

『罪名、一万年愛す』

吉田修一(著)

横浜で探偵業を営む^{とあがつたらん}遠刈田蘭平のもとに依頼が舞い込んだ。【913.6】

『深淵のテレパス』

上條一輝(著) 【913.6】



☆★まんががいっぱい☆☆

『南海トラフ巨大地震①②』

よしづきくみち(漫画) 【726.1】

『うっちゃれ五所瓦5 粘り腰編三』

なかいま強(著) 【726.1】



『SAKAMOTO DAYS ⑨』

鈴木祐斗(著)【726.1】

『怪物事変②』

藍本松(著)【726.1】

新聞で紹介されていた本です



ぜひ、手に取ってみてください

『今日も明日も負け犬。』 小田実里(著) 幻冬舎

自律神経の不調で朝起き上がることがむずかしい「起立性調節障害」という病と闘っている西山夏美さんのことを書いたノンフィクションに近い小説です。

小説を書いたのは、友人である小田実里さん。

西山さんは中1の冬頃教室で倒れ、「起立性調節障害の疑い」と診断されました。中2の夏頃、専門医に指導を受けると、少しずつ良くなってきました。中3の受験直前に、1日15時間の猛勉強で高校に合格し小田さんと出会いました。病と闘いながらも明るい性格で友だちも多い西山さんと人見知りの小田さん。小田さんは高校1年の秋頃、教室で一人、勉強への焦りや人に話せない思いなどを、メモ帳やプリントに綴っていました。そのプリントを西山さんが読んだことで二人は急接近しました。映画監督になる夢を持っていた西山さんは、小田さんに「病気を含めた自分の人生を映画化したいから、その原作となる小説を書いてほしい」と頼んだのです。「起立性調節障害」という病気が周囲の人になかなか理解されずに苦しんだ西山さんは、小田さんから100時間にもおよぶ取材を受け、2人でこの小説を2ヶ月かけて仕上げました。そしてその小説をもとにして、西山さんは自主映画を作ったのです。映画は2021年コンクール「高校生のための eiga world cup」でグランプリ(最優秀作品賞)を獲得しました。



